

令和7年度 事業報告

自 令和7年4月 1日

至 令和8年3月31日

I. 会員の状況

令和8年3月31日現在の正会員数 30社（令和7年3月31日31社）

令和8年3月31日現在の賛助会員数 47社（令和7年3月31日46社）

II. 会議

1. 総会

◇令和7年度臨時総会（第1回）令和7年4月11日 <書面決議>

【議決権の総数31社、書面表決の総数31社】

議案審議：理事選任の件（中楯 伸一 氏）

◇第14回通常総会 令和7年6月6日 <場所：ザ・キャピトルホテル東急>

【出席29社、委任状（書面表決）提出によるみなし出席2社】

議案審議：第1号議案 令和6年度事業報告

第2号議案 令和6年度収支決算報告

第3号議案 役員改選

◇令和7年度臨時総会（第2回）令和7年7月4日 <書面決議>

【議決権の総数31社、書面表決の総数31社】

議案審議：監事選任の件（西尾 俊彦 氏）

◇令和7年度臨時総会（第3回）令和7年9月24日 <書面決議>

【議決権の総数31社、書面表決の総数31社】

議案審議：理事選任の件（長谷川 朋弘 氏、矢ヶ部 彰 氏）

2. 理事会

◇第91回理事会 令和7年4月24日 <場所：日本橋梁建設協会>

議案審議：第1号議案 第14回通常総会及び第92回理事会の開催について

第2号議案 第14回通常総会議案書（案）について

第3号議案 令和7年度重点活動テーマについて

第4号議案 賛助会員の入会申込みについて（日亜鋼業）

<特別講演>

（講師）国土交通省 大臣官房審議官（技術・道路） 橋本 雅道 様

（議題）道路行政をとりまく最近の情勢について

◇第 92 回理事会 令和 7 年 6 月 6 日 <場所：ザ・キャピトルホテル東急>

議案審議：第 1 号議案 会長の選定について

第 2 号議案 副会長、専務理事の選定について

第 3 号議案 需要拡大戦略特別委員会の設置について

第 4 号議案 各委員会等執行体制について

第 5 号議案 監事選任に伴う臨時総会の開催について

第 6 号議案 顧問の委嘱について

◇第 93 回理事会 令和 7 年 7 月 24 日 <場所：日本橋梁建設協会>

議案審議：(1) 需要拡大戦略特別委員会の事業計画について

(2) 一社) 国土強靱化研究所への入会について

<特別講演>

(講師) 前 内閣官房 国土強靱化推進室 次長 丹羽 克彦 様

(議題) 防災・現在・国土強靱化に関する最近の情勢について

◇第 94 回理事会 令和 7 年 9 月 25 日 <場所：日本橋梁建設協会>

議案審議：第 1 号議案 副会長兼専務理事の選定について

：第 2 号議案 顧問の委嘱について

：第 3 号議案 事務局長の公募について

：第 4 号議案 予算・税制等に関する要望書について

◇第 95 回理事会 令和 7 年 11 月 27 日 <場所：(一社) 日本橋梁建設協会>

議案審議：第 1 号議案 株式会社 I H I インフラ建設の退会について

：第 2 号議案 事務局長の採用就業等に関する内規の改訂について

：第 3 号議案 令和 8 年度新年交礼会について

◇第 96 回理事会 令和 8 年 1 月 29 日 <場所：(一社) 日本橋梁建設協会>

議案審議：第 1 号議案 事務局長の採用について

：第 2 号議案 賛助会員の入会について (2 社)

：第 3 号議案 「自動物流道路の実装に向けたコンソーシアム」への参画について

：第 4 号議案 登録橋梁基幹技能者講習事務規定の改訂について

：第 5 号議案 令和 8 年度行事予定表 (案) について

◇第 97 回理事会 令和 8 年 3 月 26 日 <場所：(一社) 日本橋梁建設協会>

議案審議：第 1 号議案 令和 8 年度事業計画 (案) および令和 8 年度収支予算 (案) について

：第 2 号議案 令和 8 年度海外調査団の派遣について

：第 3 号議案 海外調査団派遣における「若手参加支援制度」の新設について

：第 4 号議案 賛助会員の入会申込みについて

：第 5 号議案 「災害時即応体制のガイドラインにおける災害対策本部設置に関する心得」の改訂について

III. 常設委員会の活動報告

1. 企画委員会

企画委員会は協会事業計画の企画立案や組織運営全般を担い、各委員会の横断的な課題や現状必要な課題への対応を行っているところではあるが、令和7年度は鋼材費・人件費上昇に伴う発注案件数の抑制が昨年以上で協会発足史上最低の受注重量となったため、今後状況を踏まえて対応していく必要がある。

(1) 意見交換会（幹部級）

各委員会から示された課題や意見等を協議した結果、令和7年度の重点活動テーマは、1. 鋼橋事業の需要拡大、継承と進化および国土強靱化への貢献、2. 現場安全対策の推進と品質の確保、3. 鋼橋生産性の向上、4. 既設鋼橋の強靱化・健全化の推進、5. 更なる海外展開の推進、とし意見交換会の主題とした。

国土交通省本省との意見交換は、沓掛道路局長を始めとした道路局、川村海外プロジェクト審議官を含めた総合政策局海外プロジェクト推進課、廣瀬技監・小林技術審議官を含めた大臣官房技術調査課とそれぞれ7、8月に行った。

全国整備局等10局との幹部意見交換会は9月から12月初めまでの間対面にて、協会のおかれている状況説明および要望を行った。協会からの要望である、「需要拡大」を最大のテーマとし「ピアレス橋梁」「オフセット橋梁」「アクロス橋梁」「床版取換時鋼床版化」の採用や「鋼橋データ連携の更なる推進」への前向きな発言など多数の有益なご意見をいただいた。

全国整備局等との意見交換には、44道府県および19政令指定都市が参加、「中長期の発注計画」「長大橋プロジェクトの推進」「週休二日達成に向けた取組み」「墜落災害撲滅に向けた取組み」について口頭もしくは書面で回答をいただいた。

1月には意見交換会の内容について、道路局、大臣官房技術調査課へ中間報告を行い、今後についてのご意見等をいただいた。

高速道路会社幹部意見交換会はNEXCO3社および首都高速、阪神高速の5社に対し11月から2月までの間対面にて行き、実務者意見交換と要望内容を連動させ、「途中交代技術者の実績認定書の運用」「書類と検査の簡素化」「保全工事における足場費用」などについて議論した。高速会社からは今後の事業概要紹介などがあった。

(2) 政府等への要望活用

公共事業関係予算の確保および有料道路事業の財源確保、国民生活と経済活動を支えるべき道路インフラの整備、生産性の向上を図るBIM/CIMの推進に関する要望書を議員連盟等に提出した。

(3) 委員会、WG活動など

1) 表彰委員会（3回実施）

① 令和7年度表彰

書類選考、協議の結果、伊藤學賞は三木千壽氏、技術功労賞は小西日出幸氏、掘井滋則氏を選定した。

奨励賞は書類選考と個別プレゼンテーションを実施し、設計部門6名、工事部門1名と業務部門2名を選定した。受賞者には10月3日（金）銀座プロッサムにて表彰を行った。

2. 広報委員会

令和7年度は「鋼橋事業の需要拡大」を目標に掲げ、発注者に対し単に事業量確保を要望するだけでなく、各発注者で計画されている具体的な橋梁プロジェクトの早期発注、早期事業化を訴えた。また、国土強靱化に貢献できる鋼橋として「ピアレス橋梁」と「オフセット橋梁」、「アクロス橋梁」のPRをおこなった。特にピアレス橋梁は発注者の河川担当部署の共感を得られた。更に NEXCO 工事における受発注者双方の働き方改革の推進と、工事代金のキャッシュフローの改善を目的とした、「提出書類と検査の簡略化（構造物施工管理要領の改定）」と「詳細設計における費用、工期等の諸問題解決」の実務者WGを立ち上げ年間を通じて課題解決に向けた取り組みを継続した。

(1) 意見交換会（実務者） 直轄9局、NEXCO3社、首都高速、阪神高速、地公体

- ・ 直轄実務者意見交換会については、今年度からは地区特有の困りごとを中心に地区事務所が主体となって企画推進し、各地整を担当する本部委員は地区幹事を支援する体制で実施した。主に、入札契約制度や受注後の課題の他、働き方改革等の推進に関し意見交換した。令和7年度からは沖縄総合事務局で実務者意見交換を実施。令和8年度は北陸地方整備局との実務者意見交換会を開催することが決定した。
- ・ NEXCO との実務者意見交換会では、令和6年からNEXCO3社、NEXCO 総研と橋建協で実施している「提出書類と検査の簡素化」と「詳細設計における費用と工期等の諸問題」について改善していく実務者WGの継続を要望した。また担い手確保のため、NEXCO 中、西で導入済の工事途中で交代した技術者の実績認定制度の適用範囲拡大を要望した。
- ・ 地方自治体との意見交換会（群馬県、千葉県、静岡県、石川県、熊本県）を実施。

(2) 鋼橋の需要拡大、国土強靱化への貢献

- ・ ピアレス橋梁（河川内橋脚数を減らした橋梁）、オフセット橋梁（災害箇所を避けた橋梁）、アクロス橋梁（交通渋滞を軽減できる立体交差橋梁）の採用を提案するためパンフを作成。令和7年度は直轄、高速の幹部級、実務者意見交換会でのPRを行った。また地区事務所を通じて、直轄河川部や各県への採用促進活動を実施した
- ・ 令和7年度の具体的要望として、各地整から提示された中長期計画の中から「早期発注を要望する路線」「早期事業化を期待する路線」「技術伝承・進化のために必要なビッグプロジェクト」を地区毎に選定しまとめた。

(3) WGなど委員会活動（広報委員会主幹とする活動）

○戦略広報WG

- ・ 若手社員12社12名により、鋼橋業界の広報活動を継続中。小学生、中学生、高校生、高専生、大学生を対象に活動を行った。
- ・ 各地区の建設技術展などで開催される就職支援ブースでの活動をおこなった。
- ・ 出前授業をBridge Workshop（通称：ぶりわ）と名称をつけ4カ所で開催した。
- ・ その他、SNS運用やイベント時に使用するグッズ作成など引き続き行っていく。

○ブリッジトーク

- ・ 第1回 令和7年7月15日 37名参加
講師 東京科学大学特任講師 竹谷晃一様 「持続可能な未来を築く技術と人が支えるインフラの今と未来」
- ・ 第2回 令和7年12月1日 44名参加 「賛助会員会社と若手技術者との融合」
東京ファブリック工業・日亜鋼業・日軽エンジニアリング・ヤマコ総合物流

- ・第3回 令和8年3月11日 31名参加 「歴史的橋梁を見て歩き、震災に学ぶ」
講師 CVV様（シビルベテランズ&ボランティアズ）

○虹橋WG

- ・7月に虹橋89号発刊、特集は1:循環型社会への架け橋、2:この橋をみよ！北陸事務所推薦。

○業界セミナー

- ・関連学部専攻中の学生へ、鋼橋業界に就職するためのリクルート支援を含めた宣伝活動実施。
対面実施：法政大学、日本大学理工学部、九州建設フォーラム

○橋梁年鑑WG

- ・令和8年度橋梁年鑑発行のため、グラビア選定やデータチェックを実施。

(4) 部会活動

○製作積算部会

- ・鋼橋製作（新設）積算に係る調査・研究・提案及び各地区事務所の積算要望に対する対応。
- ・製作工数等実態調査に基づく直接労務費及び製作工数等を実態に合った改定へ向けての提案。

○現場施工積算部会

- ・鋼橋架設（新設）積算に係る調査・研究・歩掛策定および地区事務所への対応。
- ・橋梁架設用機材損料に係る調査・解析・機械経費委員会対応。・積算講習会講師対応
- ・採算が厳しい歩道橋や鋼製橋脚工事の積算方法等の改善対応。（間接費積算部会と協働）
- ・床版鉄筋工の積算単価改善対応。

○間接費積算部会

- ・現場間接費に係る調査・研究・提案及び地区事務所への対応。
- ・現場諸経費率の維持・向上の為、橋建協会員に「間接工事費等諸経費動向調査説明会」の実施。
- ・採算が厳しい歩道橋や鋼製橋脚工事の諸経費の現状確認及び対応。

○契約制度部会

- ・各発注者との意見交換会用として、客先別に入札制度を調査分析、要望案等を作成。
- ・作成資料A～Dは下記記載の通り

A：発注見通し～公告

A01_中長期の発注見通しの公表比較、A02_発注見通し概要記載内容比較、A03_地整別インターネット掲載、A04_鋼橋上部発注案件日数比較表、A05_質問回答の比較表作成、A06_提案ヒアリング有無比較表作成、A07_補正予算活用実績、A08_単価歩掛公表状況

B：公告～入札

B01_地整別の工事範囲、B02_地整別の競争参加資格要件、B03_地整別の技術者要件、B04_技術者の途中交代（九州地整勘所）、B05_申請技術者の実績認定期間、B06_担当技術者としての実務経験を同等評価、B07_参加表明段階で技術者資料を求めない方式、B08_地整別の技術提案課題、B09_地整別のオーバースペック記載例、B10_技術提案 S I 型対象希望一覧、B11_C O R I N S に関する課題

C：試行工事・総合評価

C01_試行工事一覧、C02_企業実績評価型、C03_監理技術者育成交代モデル、C04_R5 年度一括審査案件、C05_段階選抜方式適用案件集計、C06_中部地整別段階選抜分析、C07_鋼橋上部工事における不調工事、C08_ECI 工事一覧、C09_応急組立橋の発注区分、C10_災害協定の総合評価項目の有無

D：高速道路版

D01_中長期的の具体的な発注見通しの公表、D02_発注見通し 案件概要の公表記載内容、D03_特
調単価・歩掛等条件の公表状況、D04_配置予定技術者の要件等比較、D05_技術者の実績認定

(5) 地区事務所活動

- 北海道事務所：橋梁技術発表会開催（鋼道研との共催、web ライブ配信試行）、意見交換会実施（開
発局幹部・開発局実務者・NEXCO 東北北海道支社実務者）、技術講習会への講師派遣（開発局橋梁エ
キスパート・NEXCO 東北北海道支社実務者）、出前講座開催（大学・高専、計6校）、安全協議会への
参加（NEXCO 東北北海道支社）、工場見学会実施（NEXCO 東北北海道支社実務者）、本州北海道架橋を
考える会講演会への参加と後援。R8 年度橋建協パズルの橋梁を選定（白鳥大橋）。
- 東北事務所：東北地整（局長・実務者）における意見交換会を実施。E E 東北'25 にブース出展し鋼
橋の魅力についてPR。地方自治体、各大学出前講座・技術講習会・高校生橋梁模型発表会参加。
青少年のための科学の祭典 in 東京参加、学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ 2025 参加（サイエ
ンス・デイ・オブザイヤー2025 東北大学総長賞を受賞）。事務所総会の開催。東北地整 総合防災
訓練への参加。東北地方工事安全施工推進大会（SAFETY2024）への参加。東北地整管内現場 安
全パトロールの実施。応急組立橋架設点検見学会対応。
- 関東事務所：関東地整・東日本高速、中日本高速（株）東京支社・首都高速における幹部及び実務
者クラス意見交換会を実施、群馬県及び千葉県（新規）との意見交換会を実施。地方自治体や各大
学・高専・工業高校・建コン等への出前講座・技術講習会・現場見学会・工場見学会を実施。横須
賀工業高校からリクルート支援の相談を受け、本部経由会員各社へ求人依頼を発信。「東京都 橋と
土木展」に出展し一般の方へ鋼橋の魅力をPR。
- 北陸事務所：北陸地整局長級意見交換会、犀川大橋橋磨き・百寿祭、出前講座（富山大学・長岡
技科大・長岡高専・石川高専）、技術講習会（新潟県・富山県）、橋梁技術講演会（建コン北陸と共
催）、北陸道路研究会、石川県へ要望書提出、建設技術報告会、建設物価懇談会に参加
- 中部事務所：中部地整、中日本高速、名古屋高速、静岡県、意見交換会実施。技術講習会（愛知県・
静岡県、建コン等）、出前講座（岐阜大・豊田高専）実施。「建設技術フェア 2025 in 中部」に出展
し、大学生や高校生に対し鋼橋の魅力をPR。
- 近畿事務所：近畿地整・西日本高速・阪神高速の幹部および実務者、かつ大阪府にて意見交換会を
実施、建設技術展近畿・ふれあい土木・本四模型コンテストへ協会ブースを出展し鋼橋の魅力につ
いてPR、技術講習会・出前講座を実施。橋梁技術発表会では犀川大橋100周年に関し北陸地整
より特別公演。ブリッジトーク大阪は、CVVのご協力により「大阪市中之島周辺の橋を見て歩き」
した後、会場に移動して講演聴講、テーマに沿った討議を行う、といった体験型イベント併用形式
で実施。
- 中国事務所：中国地整・広島県意見交換会実施、「建設技術フォーラム in ちゅうごく」リアル展示
会参加、山口大出前講座実施、技術講習会講師派遣（中国4県（山口県除く）、建コン中国支部）、
虹橋・橋梁年鑑配布による鋼橋普及・改善活動。
- 四国事務所：四国地整意見交換会・技術交流会開催。
徳島大学・愛媛大学出前講座、建コン協・PC建協との合同技術講習会実施。香川県意見交換会。
香川県との災害協定について締結に向けた協議を実施。
- 九州事務所：九州地整（局長級・実務者級）・NEXCO 西-九州支社と意見交換会の実施、地方自治体
への技術講習会や各大学への出前講座の実施、橋梁三力会の活動を継続、土木の日、九州建設技術
フォーラム・インフラメンテナンス国民会議への出席。熊本県新技術連絡会の開催。
- 沖縄事務所：沖縄総合事務局を対象に実務者意見交換会を実施。入札契約に係る課題の共有が出来

た。次年度に向けて逐次課題解決していくことにした。沖縄総合事務局、沖縄県意見交換会(幹部)、局・県・コンサル対象の技術講習会実施。琉球大学向け出前講座を行い県内の若い世代に鋼橋の魅力を伝えた。沖縄しまたて協会開催の直轄講習会への講師派遣を通じて鋼橋のPRを行った。

3. 技術委員会

発注者、国総研、土研、大学、関連学協会との共同研究・委託研究、意見交換等を通して、鋼橋の市場拡大、多岐にわたる技術的課題の解決に取り組んだ。以下に、技術委員会共通、各小委員会での活動内容を報告する。

(1) 技術委員会共通

道路橋示方書改定に関する活動、発注者や大学への講師、委員の派遣、建設コンサルタントや日本鉄鋼連盟等の関連団体との意見交換会を開催し、鋼橋の市場拡大に努めた。また、国土交通省に関しては、BIM/CIM推進委員会の各WGへ参加し、鋼橋の自動設計や生産情報の関係システム連携を推進した。また、NEXCO各社からの各種依頼業務の対応は継続して実施している。以下に主な活動内容を示す。

- ① 設計・施工の道示改定及び各便覧改定の委員会、WGへの参画
 - ② 国交省BIM/CIMやi-Construction関連会議への参画
 - ③ 大学・高専(出前講座)、発注者の技術研修会への講師派遣
 - ④ 橋梁技術発表会の実行委員会としての企画運営及び講演
 - ⑤ 発注者要請に応じた、委員の現地派遣(豪雨被災橋梁等)や各種要領の意見照会対応
- 技術委員会からの発信情報を下記に示す。

◆書籍：鋼道路橋計画の手引き(改訂版)2025年5月、デザインデータブック2026年4月

◆技術資料：橋建協標準合成床版(改訂第6版)2025年4月、鋼橋工場製作標準工程2025年5月版

◆論文等：土木学会年講8編(製作2、床版6)、鋼構造シンポジウム(床版1)、鋼構造論文集(製作1)

(2) 設計小委員会

道示改定がなされ性能評価・診断小委員会や品質保証小委員会の活動が佳境を迎え、設計計算例WG等各WGで具体的な試算や検討を行った。その他、橋建協テキスト類の改訂作業を進めるとともに、名高速標準図の改定やNEXCOとの意見交換会にも参画した。以下に主な活動内容を示す。

- ① 性能評価・診断小委員会および品質保証小委員会各WGへの参画(日本道路協会)
- ② 異種材料を活用した鋼橋の合理的な性能回復技術の開発に関する共同研究への参画(土研、P C建協、鋼構造協会)
- ③ 道路橋の耐久性能の信頼性評価に関する共同研究(土研、国総研、P C建協、鉄連)
- ④ 「デザインデータブック」、「鋼道路橋計画の手引き」の改訂作業
- ⑤ BIM/CIM推進委員会、活用促進WGへの参画(技術調査課・国総研、建コン協、JACIC)
- ⑥ 名古屋高速道路公社の標準図改定への参画(名高速)
- ⑦ NEXCOとの意見交換会(NEXCO)
- ⑧ 阪神高速道路 鋼構造物検討委員会への参画(阪神高速、学識者)

(3) 製作小委員会

製作部会では、SBHS700の溶接性確認試験やプレス加工による機械的性質確認試験などを行った。耐候性鋼橋部会では、耐候性鋼橋の経年調査を行い、技術的課題の整理を行った。防食部会も各種防食仕様の暴露試験体の経年調査を行い、その適用性などについて検討した。以下に主な活動内容

を示す。

- ① SBHS700の溶接性確認試験とプレス加工による機械的性質確認試験（鉄連と共同検討）
- ② 鋼橋の製作工場における遠隔臨場に関するガイドライン(案)の更新
- ③ DXミルシートの推進
- ④ 耐候性の点検手法および維持管理に関する調査・研究（琉球大学、国総研との共同研究）
- ⑤ 耐候性鋼材の腐食減耗量予測手法や評価方法の国際基準化（ステンレス協会、鉄連他）
- ⑥ 九州・山口地区における耐候性鋼橋の調査・研究分科会への参画（九州橋梁・構造工学研究会）
- ⑦ 3Dプリンターを用いたさびゲージの検討・試作
- ⑧ 塗装や溶射などの暴露試験による防食技術に関する調査・研究
- ⑨ 日本道路協会の性能評価・診断小委員会および品質保証小委員会への参画
- ⑩ 沖縄地区鋼橋防食マニュアル検討委員会への参画

（4）架設小委員会

令和5年に発生した清水立体の事故を踏まえ、道路橋施工における安全性向上を目的として、道路橋施工便覧の改定方針について土木研究所と連携し検討を進めている。また、全般的には、架設工事に携わる技術者および技能者の育成・確保を促進するとともに、安全な施工環境を整備するため、以下の活動を展開している。

- ① 建設マスターおよび建設ジュニアマスターの応募推進
- ② 工事現場業務の効率化推進WG会議への参画（中部地整）
- ③ DX推進小委員会 架設WGへの参画
- ④ 「鋼道路橋計画の手引き」の改訂作業
- ⑤ 施工便覧改訂WG 架設SWG参画（土研）
- ⑥ NEXCO実務者意見交換会(NEXCO)
- ⑦ グリーン化推進WGへの参画
- ⑧ 名古屋高速道路公社 現場溶接WGへの参画（名公社）

（5）床版小委員会

合成床版、鋼床版のさらなる品質向上、および直面する課題である、合成床版の性能評価、鋼床版の疲労対策等に関して、官学共同で調査研究を行った。床版取替え技術は、取替え鋼床版の市場拡大を検討するとともに、コンクリート系床版においては床版取替え時の桁補強に関する研究成果を得た。コンクリート系床版の劣化状況を把握し検討するための調査体制を拡張し調査を本格的に実施し、床版劣化メカニズムや対策について、橋梁技術発表会で対外発表を行った。床版DX技術に関しては、現場での実証試験を行い貴重な試験データを取得している。下記②、⑨、⑫に関して、土木学会年次学術講演会に論文投稿した。

- ① 日本道路協会対応（道路橋示方書・鋼道路橋施工便覧改定、道路橋床版防水便覧改定）
- ② 合成床版の性能評価法の研究
- ③ 道路橋床版の凍害調査
- ④ コンクリート系床版の損傷状況調査検討
- ⑤ 床版DX技術の検討（初期反応促進型膨張材、コンクリート硬化の定量的把握技術：硬度計計測）
- ⑥ 「PC床版施工の手引き（プレキャストPC床版編）」の改訂
- ⑦ 床版取替え工法の研究（床版取替えにおける鋼桁補強事例）
- ⑧ 合成床版およびPC床版、取替え床版の施工実績調査とまとめ
- ⑨ コンクリート検査法に関する調査研究

- ⑩ 床版防水工施工の実態調査
- ⑪ 岐阜大学ME（メンテナンスエキスパート）養成講座の講師対応
- ⑫ 取替え鋼床版の主桁接合方法・横リブ構造の検討（法政大）
- ⑬ 取替え鋼床版の施工法研究
- ⑭ 垂直補剛材上端部の疲労強度向上策の検討（法政大）
- ⑮ 縦ビードの疲労寿命の検討（法政大）
- ⑯ 海外鋼床版の調査検討

(6) DX推進小委員会

データ連携活用検討WGの活動を継続し、今年度は鋼橋データ連携試行工事の将来に向けたアクション（照査システムの要求仕様作成、2D図面削減検討、構造・属性の統一検討）を遂行した。この取り組みは、国交省のBIM/CIM推進委員会でもフロントランナーとしての役割を果たし、他工種（橋梁下部工、ボックスカルバート）への展開に繋げることができた。また、製作、架設、床版ならびに保全の各WGにおいても検討・開発を推進した。以下に、主な活動内容を示す。

- ① 「i-Bridge 適用工事制度」の運用
- ② 国交省のBIM/CIM推進委員会への参画
- ③ 鋼橋のデータ連携実装に向けた共同開発
- ④ 鋼橋のデータ連携について建設コンサルタツ協会 各地方支部への説明会実施
- ⑤ DXミルシート（電子ミルシート）の活用推進
- ⑥ 鋼橋の製作工場における遠隔臨場に関するガイドライン（案）の推進
- ⑦ 橋建協による賛助会員提供の現場施工に関する商品サービス等の新規開発協力の提案
- ⑧ 床版施工のDX関連技術の試行
- ⑨ 3D差分解析による腐食高力ボルト耐荷力評価システム（仮称）の検討
- ⑩ 講習会への講師派遣、新聞・雑誌への投稿

4. 保全委員会

(1) 事業の重点課題

各発注者との対話を重ね、保全工事における問題点の抽出および改善策の検討を行った。また、保全のニーズ把握や技術力向上を目的として勉強会、見学会を実施した。

(2) 具体の活動報告

1) 保全工事の環境整備

保全工事が各社にとって魅力ある工事となるよう実施してきた発注者との対話の会について、本四高速、阪神高速、NEXCO 中日本、関東地整と実施した。また、首都高速とは対話の会開催手順について協議した。また、働き方改革についても対話の会の中で議論した。

2) 保全勉強会・見学会

11年間継続している保全工事事例勉強会（保全合同部会）を今年度も開催した。また、PC橋から鋼橋への原位置架け替え工事を見学し、技術の研鑽を行った。

3) 新規活動

- ①保全工事において誤差吸収に有用な長孔・拡大孔を使用した HTB 接合の適用範囲拡大に関する試験研究については、有識者からの助言もあり、既往研究の調査に留めた。

- ②保全の立場からみた鋼橋の不適切なディテールに関する改善提案を行うための WG 活動については、2年間の活動成果として資料を取り纏め、協会ホームページにて公開した。

5. 品質・環境委員会

(1) 品質・環境委員会活動について

令和7年度は、「品質月間活動」及び「品質・環境委員会セミナー」を通して人材の育成と品質・環境の向上を目指して活動を行った。令和6年度に収集した鋼橋工事で会員各社が経験した設計、製作、架設の失敗体験を、トラブル事例として取りまとめるとともに、セミナー用のパワーポイントを作成した。会員各社の品質向上・人材育成活動として、10月に会員各社にトラブル事例の配布を行い、3月に「品質・環境委員会セミナー」を開催した。

品質・環境委員会セミナーの内容は以下の通りである。

1) トラブル事例の整備

技術委員会メンバーから設計・製作・架設の失敗事例を収集し、所定の様式に失敗の現象・原因・対応をまとめトラブル事例として整備した。

2) トラブル事例等のパワーポイント作成

最新のトラブル事例及びアドバイス資料等をパワーポイントで作成し、会員用のホームページへ登録した。

3) 品質・環境委員会セミナーの開催(CPDS 3ポイント付与)

以下の内容でセミナーを開催する。

【日時】令和8年3月11日(水) 13:00～

【場所】橋建協 会議室

【内容】

① トラブル事例関連

- ・橋建協 HP からトラブル事例集へのアクセス方法
- ・トラブル事例(設計・製作・架設)の原因と対策

② 特別講演

テーマ:「グリーン社会実現に貢献する国総研の研究」

講師: 国土交通省国土技術政策総合研究所 大城 温 様

6. 安全委員会

令和7年度、安全委員会は、以下の重点課題を掲げ安全活動を推進した。

- ① 重篤災害・死亡事故ゼロ達成に向け具体的な行動を展開する。
- ② 安全管理水準の向上を促進する。
- ③ 発注者と共に創る安全に向けた活動を展開する。
- ④ 安全委員会は、各社共有の安全組織となる。

労働災害について、令和5年は連続発生 of 重大事故による死亡者が4名になる非常に残念な結果であった。令和6年は、休業4日以上が5件(死亡者ゼロ)、そのうち墜落災害が2件の結果であった。令和6年の安全成績は比較的向上したが、安全委員会として、課題活動を継続しつつ、改めて「仲間の命を守る」を合言葉に、会員会社が一一致協力して再発防止に向けた安全管理を推進できるよう、安全活動を実施した。

令和7年の安全成績は、休業4日以上労働災害が8件、そのうち墜落災害が4件、目標とした連続死亡災害ゼロを達成した。一方、重大事象となる4件の物損事故を発生した。

安全委員会の令和7年度に実施した主な活動実績を、以下に報告する。

(1) 安全委員会共通

- ・ 第30回安全責任者連絡会総会・安全研修会を開催（令和7年6月20日）。
安全研修「国土交通行政をめぐる最近の情勢」国土交通省技術調査課 柴田課長補佐。
橋建協研修「高所作業車の安全性向上に向けた改善要望の取り組み」、「作業者のための安全衛生Q & A 改正版の紹介」。
- ・ 令和6年度の橋建協重点活動テーマの中で、現場安全対策の推進（安全性の向上）として、
①橋桁落下等重大工事事故の防止対策、②墜落災害等に向けた現場安全対策の取り組み、③現場安全に関する新技術の推進、④新型足場の採用促進、を掲げ活動。国直轄局、道路会社との意見交換会に出席。
- ・ 安全祈願を伊勢神宮で執り行った（令和8年2月6日）。
- ・ 安全委員会表彰制度に基づき、安全推進優良職長10名を安責者総会で表彰。
- ・ 中野逸郎委員に、安責連総会で安全委員長から安全功労表彰（高所作業車の安全改善要望）。
- ・ 登録橋梁基幹技能者認定講習会（2回開催）に安全講師を派遣。
- ・ NEXCO3社の各支社安全協議会に参加。
- ・ 墜落災害撲滅に向けた各現場での「統一行動」の推進。
- ・ NEXCO西日本「安全対策の取り組み」の説明会。
講師：西日本高速道路（株）小笹浩司 取締役常務執行役員 建設事業本部長。

(2) 安全東日本部会

- ・ 自主パトロールとして東北地整管内での稼動中現場（5橋）の一斉パトロールを実施（令和7年9月12日～10月31日）。
- ・ 中部地整管内の鎌田川橋（横河ブリッジ施工）において、発注者との合同安全パトロール、北勢市民会館で安全研修を実施（令和7年11月26日）。
- ・ 発生した事故災害の調査・分析および再発防止教材「わかりやすい災害資料」の作成、SD配布。
災害データベースに登録。
- ・ 鋼橋建設技術者安全衛生講座（工事計画参画者コース）に安全講師を派遣。
- ・ 関東地整管内の塩浜立体山側橋梁その2（横河ブリッジ施工）において、発注者との合同安全パトロール、ヤード内詰所で安全研修を実施（令和8年2月26日）。
- ・ 「見守りカメラの設置」の活用推進に向けた情報収集と展開（遠隔パトロールデモ）。

(3) 安全西日本部会

- ・ 施工中と完成写真、イラスト、安全標語を募集、選考、安責者総会で表彰。編集した安全ポスターおよび安全標語短冊を会員各社に頒布。
- ・ 安全衛生Q&Aの改訂（令和5年度版）（鋼橋架設工事において200の疑問に答える）（令和6年3月）発刊、頒布。継続して「作業者のための安全衛生Q & A 改正版」を作成。
- ・ 阪神高速道路、福北高速道路、名古屋高速道路からの要請により、安全査察員、安全管理アドバイザーを派遣。
- ・ 自主パトロールとしてNEXCO西日本発注の高槻高架橋東（瀧上工業施工）、成合第一高架橋（宮地エンジニアリング施工）で実施（令和7年12月9日）。

7. 海外事業委員会

(1) 概況

今後の市場の不確実性を打開すべく、海外市場における鋼橋の需要創出及び数年後の案件形成に向け主体的且つ積極的な活動を行った。

(2) 活動実績

- 1) 今後国内でも更なる市場拡大が予想される老朽化した橋梁の更新工事や時代のニーズに合致させるための改築工事などへの知見を深めるべく、歴史的鋼橋が数多く現存するアメリカ東海岸の橋梁の調査を行った。会長、副会長、専務理事以下、協会参加企業及び事務局他から総勢22名の参加があり、海外事業に関する興味を深めるといった面も含め有意義な調査となった。
- 2) 昨年度の海外事業委員会としての海外調査団にて発掘したネパール・カトマンズ市内交差点立体化案件に対して完成予想図を作成し、その他具体の提案に向けた準備を行った。
- 3) 今年度も海外事業委員会としての海外調査団派遣はネパール渡航を軸に計画したが、同国の政情不安、またその他の国においても確たる渡航主旨が現状は見えてこず、検討を継続して来年度に延期することとした。
- 4) 他方、今後の海外市場への展開を念頭に国内の優れた技術に関する知見を深めるべく、4月に熊本・球磨川流域の災害復旧関連の架替工事、3月に大規模新設工事である滋賀・野洲栗東バイパス野洲川橋の見学を行った。
- 5) 国交省海外プロジェクト審議官、総合政策局海外プロジェクト推進課、道路局企画課国際室との意見交換会を行った、また同意見交換会においては個社の課題についても相談する機会を得た。
- 6) 国交省及び JICA による案件説明会について委員会にて共有をした。
- 7) より訴求性を高めるべく、標準 PR 資料の改定を行った。

IV. 特別委員会の活動報告

1. 需要拡大戦略特別委員会

(1) 概況

鋼橋発注量が年々減少の一途をたどっており、このままだと協会の企業経営が危惧される状況になっていることから、鋼橋発注量の継続的拡大を目指す目的で、2025年9月に当委員会は発足した。

2026年1月より、本格的に調査活動を開始し、道路予算獲得、鋼橋需要創出のための戦略を討議した。

今後、国政関係、発注者ならびに発注関係機関に鋼橋発注量拡大を働きかけるとともに、国土強靱化などの予算獲得について、国交省だけではなく、幅広く各方面への要望活動を実施する。

(2) 主な活動状況

- ・ 2026年1月委員会にて、今後の活動方針の整理、委員の役割分担を決定した。
- ・ 2026年2月委員会にて、活動内容について審議し、コンテンツの整理を行った。
- ・ 2026年1月の理事会にて、自動物流道路コンソーシアムに参加が決まり、2026年3月16日に、コンソーシアム3分科会合同会に参加した。
- ・ 2016年3月委員会にて、各方面への要望案について審議し、4月以降の要望活動案の取りまとめを行った。

V. 受託業務

新規受託業務なし。

VI. 出版物発行業務

鋼橋に関する出版物を発行し、各関係機関及び会員等への鋼橋PRを推進した。

- (1) 橋建協が発行する協会誌「虹橋 89 号」を発刊し、「特集 1：循環型社会への架け橋」、「特集 2：この橋をみよ！ Vol.4 北陸の橋」等の記事を掲載した。
- (2) 「橋梁年鑑（令和 7 年度版）」を発行した。

VII. 登録橋梁基幹技能者講習業務

定款第 4 条（3）橋梁建設に関する啓発宣伝に基づき、橋梁架設現場における基幹技能者の育成を目的として、建設業法施行規則（第 18 号の 3 第 2 項）による国土交通省の登録を受けて、登録橋梁基幹技能者講習を実施した。講習は新規に資格を取得する者に対して「認定講習」を実施した。

- (1) 令和 7 年 10 月 21 日（火）～24 日（金）、11 月 18 日（火）～21 日（金）の各 4 日間、計 2 回の登録橋梁基幹技能者講習「認定講習」を実施した。
- (2) 今年度の試験合格者は 61 名。建設業振興基金のデータベース登録者数は 1,037 名となった。
（令和 8 年 3 月 31 日現在）

VIII. 技術開発業務

- (1) データ連携活用検討WGにおいて、鉸桁の「設計情報属性ファイル」を実装し、試行工事 13 件を実施するとともに箱桁対応版の開発を行った。
令和 8 年度は鉸桁定着部材の拡張システム開発と箱桁の効果検証を行う。

IX. 「橋の相談室」業務

令和 7 年度の総相談件数は令和 8 年 3 月末段階で、263 件（平均 22 件／月）あり、相談室の技術顧問が対応処理した守秘を要する個別案件およびそれに準ずるものは 203 件（平均 17 件／月）であった。203 件の内訳として、相談内容は架設に関するものが最も多く 23%であった。相談依頼者はコンサルタントが 71%、地方自治体が 8%、国交省が 4%という割合であった。

表 1－「橋の相談室」相談内容内訳

相談内容	件数	割合 (%)
設計	44	22
製作	23	11
架設	47	23
保全	40	20
防食	11	6
床版	8	4
積算	11	5
その他	19	9
合計	203	100

X. 事務局

- (1) 令和7年度海外調査団を派遣。
 - ・研修期間：令和7年10月4日（土）から令和7年10月10日（金）まで
 - ・研修場所：米国（ニューヨーク、ワシントン）
 - ・参加人数：22名（プレス1名同行）
- (2) 「3.11 伝承ロード研修」を実施。
 - ・研修期間：令和7年10月8日（水）から令和7年10月9日（木）まで
 - ・研修場所：岩手県（一関市、陸前高田市）、宮城県（気仙沼市、石巻市）
 - ・参加人数：22名
- (3) 令和7年度の受注量を4半期毎に集計、報告。

以上